広報 さくら
古志コミュニティセンター広報部　TEL 21-0925
No.411　令和8年2月26日発行

「コミセンで避難訓練実施」

強く　やさしく　美しく

還暦を迎えて

原　健治

還暦という大きな節目を迎えました。

私が二十歳の頃に思い描いていた六十歳は、もっと完成された「大人」でしたが、いざ自分が六十歳になってみると、まだまだ落ち着きもなく、趣味や旅行などへの好奇心が旺盛なのに驚いています。

こんな感じで、「還暦を迎えてもいいのかなあ～」という戸惑いもありますが（笑）

この六十年を振り返ると、本当に色々なことがありました。

家族や友人との喜びや悲しみ、そして仕事での挑戦、そのすべてが今の私を作っていると感じています。

これまで出会った人、支えてくれた全ての人に感謝し、これからも健康に気を配り、明るく楽しくをモットーに家族との時間、趣味や旅行、それと気が置けない友人とお酒を飲んだりする時間を、今まで以上に大切にして思い出をたくさん作っていこうと思います。

Happy 60th Birthday!

喜寿を迎えて思うこと

土江　孝夫

このたび、無事に喜寿を迎えることができたことを心よりありがたく思っております。

青春時代は変化とともに歩み、家庭を築き、仕事に励んできた日々は、振り返ればあっという間でした。いろいろなことがあった、苦しいこと、悲しいこと、うれしいこと、楽しいこと、とにかく、たいした病気もせず、事故にも遭わず、七十七年生き続けられたことに感謝します。

もう七十七歳になるなんて信じられない、つい最近古希の祝いをしたばかりなのに、七十七歳は喜寿といわれるが自分ではそれほど年をとったとは思っていません。

喜寿を迎えると、朝露をもって硯ですり、七を三つ書いて神前に飾ってあったのを今でもはっきり覚えています。つまり家内・親戚中でお祝いをしたと思います。

これからも、心穏やかに、そして人とのつながりを大切にしながら、楽しく毎日を過ごしてまいりたいと思います。

四十二会を迎えて

新宇賀　今岡　雅寛

この度、古志四十二会の幹事を岡田望・柳楽裕美・今岡雅寛で務めさせていただきました。

準備を進める中では「小学校同窓会に人は集まるのだろうか」と心配もありましたが、当日（1月2日）は雪が降る足元の悪い中にもかかわらず多くの同級生、そして恩師の先生方にもご出席いただきました。久しぶりに聞く呼び名や話し方に、気持ちはすっかり当時に戻り笑い声の絶えない温かな時間となりました。あの頃は気づけなかった先生方の言葉の重みも今になって実感し、改めて感謝の思いが込み上げました。

また、古志文化祭では四十二会としてお餅配りとお菓子配りを担当しました。子どもたちの笑顔や地域の方々からの「ありがとう」「頑張ってね」の一言一言が本当に嬉しく、改めて私たちはこの古志の地域に育てられてきたのだと強く感じました。今後も感謝の気持ちを大切にして、地域と共に支え合いながら元気に過ごしていきたいと思います。

最後になりますが、この度の四十二会事業にご協力いただいた地域の皆様、古志コミュニティーセンターの皆様、諸先輩方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

うどん作り

昨年に引き続き、古志コミセン総務部と古志社協高齢者部の共催で「うどん作り」を行いました。参加者は、小学生親子さん2組を含め総勢21名で、講師の山根勉さんと山根悦子さんに、親切・丁寧にご指導・ご支援をいただき、賑やかに開催することができました。

大まかな手順は、①塩と水を混ぜ、塩水を作る→②うどん粉をまとめてこねる→③まとめたうどん玉を寝かせる→④足で踏み伸ばしてたたむ（繰り返し4回）→⑤こたつで30分程度寝かせる→⑥うどん生地を丸め、麺棒で伸ばす（3㎜）→⑦伸ばした生地を、包丁で押し切る→⑧湯を沸かし、切ってまとめた麺をゆがく→⑨流水でぬめりを洗い落とす　です。

この後、参加された古志そば同好会の方々に作っていただいた茹で上がりのうどんを、21人全員で愛でながら、美味しく楽しく食することができました。

自作のうどんは、それぞれ持ち帰りました。おそらくご家族で歓談され、楽しいひと時になったことでしょう。お世話いただいた皆様有難うございました。

出雲市駅伝カーニバルに参加して

古志対協理事　安井　宏

1月18日(日)に浜山公園陸上競技場で開催された第2回出雲市駅伝カーニバル兼第55回地区対抗駅伝に、古志体協チームで参加しました。

当日は晴天に恵まれ、オープン参加を含め27チームが6区間（1㎞～1・5㎞）計7・5㎞のコースで競いました。オープン参加で盛り上げて暮れたのはディオッサ出雲FCの選手たちです。優勝は神西スポーツ協会の二連覇でした。

古志体協チームは、1区の小学生から60代の選手まで精一杯の力走をしてタスキを繋ぎました。結果は17位で昨年と同じ順位でしたが、参加チームが増えた中で健闘したと思います。選手集めでの苦労もありましたが、今年も皆さんのご協力のおかげで大変良いチームになりました。参加された選手及び役員の皆様、大変お疲れ様でした。これからも体協行事へのご協力よろしくお願いいたします。

堤の桜 施肥作業

自治協会開発部
部長　山根　敦

二月一日に堤の桜の施肥作業を行いました。

桜は、日あたりと水はけ・水もちのバランスのよい場所で育てることが大事だそうです。

植えられてから二十年くらいたっているそうで、かなり大きく育ってきたなと思いましたが、本来ならもう少し大きくなっていてもいいのではという話も聞きました。作業してみると、確かに日当たりはいいのですが土に石ころがたくさん混じっていたりヨシの根が張っていたり、また、風が強く当たる所なので、良い環境とは言えないのかもしれません。

また、土の養分も少ないので、少しでも大きく育ってほしいということで、毎年施肥作業を行っています。今年も十六名の方にお出かけいただき、寒い中でしたが熱心に作業していただきました。こうした育樹作業により満開の桜が咲き誇ることを願っています。皆様、ありがとうございました。

3月行事予定

4日(水)りんごちゃん教室
11日(水)健康はつらつ教室
12日(木)文書配布日
15日(日)すまいる食堂
18日(水)元気サロン
19日(木)健康マージャン
26日(木)文書配布日

ひとひら抄

艶やかな葉に実をつけたアオキは、まだ緑色。クロガネモチの木の下で、木陰が似合っている。つるっとした珊瑚色の実になるのを望んでいるのは、少し大きめの鳥。緑と赤、そして地面の茶色。屋根から落ちた雪は、なかなか融けず、長靴で山を砕いていく。しもやけができた足には、その衝撃が気持ちいい。毛糸の帽子をかぶった父が耳たぶを隠さず、いつも真っ赤にしていたことを想いだす。優しく揉んであげれば良かったと、薄青い空を見上げて思う。

（悦）